

マット運動の楽しさに関する研究

岡本 鉄平 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 南島 永衣子

キーワード : 運動の楽しさ、マット運動、5つの因子

1. 緒言

小学校学習指導要領体育編において、生涯スポーツの実践や楽しさの体得が重要視されている。しかし、文部科学省(2011)によると体育授業を行うにあたり、教員によっては授業の工夫が十分図られていない例も見られる。これは教師たちが日々の仕事に追われ、教材研究を行う時間が十分保たれていないことや、専科以外の授業や教材をどのように工夫したらよいかかわからないといったことが考えられる。そのため、このような問題によって教師は、児童の発達段階などを考慮した適切な指導が十分に行えず、運動の楽しさを味わわせてあげることができないなどの問題が浮上する。

これまで体育授業の楽しさに関する研究は多くの観点からされてきたが、何よりもまず運動種目による楽しさの違いを把握し、子どもたちと教員との間に生じる楽しさに関するズレを修正したうえで授業を構成していく必要があると考えられる。

そこで本研究では、器械運動のマット運動における楽しさに関して、検討することを目的とした。

2. 研究方法

小学校 5,6 年生 107 名に対し、筒井ら(1991)の研究の際に使用されたアンケートに加筆修正を行い、「マット運動の楽しさ」を感じると思われる仮想場面について 71 項目のアンケート調査を行った。次いでそれらを得点化し、主因子法により因子分

析をし、さらに抽出された因子行列にバリマックス回転(直交回転)を施した。

3. 結果と考察

本研究では、2 度の因子分析とバリマックス回転により、5 つの因子を抽出した。その結果、第 1 因子は達成感に関する項目や、賞賛に関する項目で構成されていた。そのため『快感因子』と命名した。第 2 因子は理解に関する項目で構成されていた。そのため『理解因子』と命名した。第 3 因子は気楽さに関する項目で構成されていた。そのため『気楽因子』と命名した。第 4 因子は挑戦に関する項目で構成されていた。そのため『挑戦因子』と命名した。第 5 因子は自分に厳しくする項目で構成されていた。そのため『厳しさ因子』と命名した。これら 5 つの因子は相互に関連しあい、楽しさを規定する要因となっていることが示唆された。

4. まとめ

本研究では、マット運動の楽しさを規定するものは『快感』『理解』『気楽』『挑戦』『厳しさ』の 5 つであるという結果が出た。また、これらは相互に関連して楽しさを規定する要因となると考えられる。よって教員はマット運動の授業を行う際、これら 5 つの要素をバランスよく取り入れた授業を行うことで、子どもたちが楽しいと感じられる授業を行うことができると示唆された。